

次世代育成支援対策地域協議会での事業評価に係る発言 要旨

委員

担当課で A・B・C・D の評価をつけているが、もう一つの大事な評価は、実際に利用された方の評価ではないか。全ての事業で全ての人から聞くことは無理だと思うが、一定の事業について利用者の満足度を確認する作業を考えているか。

事務局

計画の進捗状況については、各課からの状況を収集して作成しているため、本当にその評価で良いかの、もっと違うやり方があるのではないかなど、委員の皆さんにも評価方法を提案していただくことで、良い評価ができるのではないかと思う。評価の基準は、市で統一していないため、5段階評価であったり、3段階評価であったりと様々である。評価方法は、検討していきたい。

委員

評価基準が曖昧なものを読んでも、あまり参考にならない。事業を何回行ったので A、何回だから B という基準を示す必要がある。評価が下がった事業は、「課としてその原因等についてこのような分析をしている」というような説明があると、理解しやすい。

○ 委員

利用者側からの評価の視点を盛り込んだほうが良いことや、アウトプットの数字だけではなく、アウトカムの視点も取り入れるべきではないかということは、以前の協議会でも指摘している。

○ 委員

評価については、昨年度に比べてかなり改善されたとのことで、まず第一歩だと思う。この評価表の完成度を高めていけば、次期の計画策定をする上で有効に使えるのではないかと、期待している。評価主体者は、当面は行政の担当部署ないしは担当者ということが優先されることはやむを得ないと思う。ただし、第三者、第三者ということで、段々と評価対象主体者を増やして、精度の高い評価をしていくことが必要である。利用者評価は、第三者評価だが、できる範囲でアンケート調査を取るなど、徐々に始めていくことが必要ではないか。第三者として、この地域協議会が、力量をつけていけば、評価をしていくことも可能ではないかと思う。

評価の方法としては、世界的には、イギリスで義務付けられている、アウトカム評価が一般的になりつつある。例えば、保育所の定員を何人増やすというのは、アウトプットであり、待機児童を減らし、いつでも、誰でも必要とされる時に利用できるようにする、ということがアウトカムである。次期の計画を作る時は、アウトカム評価やアウトカム指標を意識しながら作っていくことが重要である。今の計画では、アウトカム評価

困難なので、少し漠然としてはいるが、進んでいく道を示している「目的」と、進むべき道を具体化するための明示をした「目標」との関係で、到達度を評価することで、「良かった」という評価をした場合、その根拠は何なのかまでが記載されることになり、担当課は、振り返りができるし、私たちも判断しやすい。

(以上、平成20年度第1回地域協議会)

委員

来年度の評価の仕方は、どうなるか。

事務局

来年度も、今年度と同様に各主管課の職員による自己評価である。

委員

現在の評価は、どのようにすればA評価となるか等、何かの基準に則っているか。

事務局

明確な評価の基準はない。平成17年度から3年間、現在の評価方法で実施している。自己評価のみの評価では、不十分だと指摘は理解できるがこの方法を継続したい。次期計画の策定では、評価を踏まえた事業内容の記載等をしたい。

委員

評価は、現在の4段階評価で良い。誰が評価するのは、検討すべきだと思う。

委員

現在の評価は、例えばB評価とC評価とで、どのくらい差があるのかなどが、不明確である。また、どのような理由だからB評価、何かできていないからC評価である、等をもっと明確にしてほしい。

委員

普通の評価であれば、前年度実績や平均点から、何%上回ればB評価である等という評価方法を採用している。ある程度の目安(基準)を作れば、評価は明確になるのではないかと。現在の評価方法では、その時の主観によって判断してしまうのではないかと。思う。

委員

自分たちが思う評価と各課からの自己評価のギャップをそのままにしておいて良いのだろうかと思う。

委員

評価は、事業実施者、利用者、第三者の3者の評価がなければ、成り立たないものである。現在の評価は、以前から行政で行われてきたやり方であって、それも必要ではあ

るが、当事者評価、利用者評価を踏まえて、第三者評価として地域協議会が意見を言うという試みを行っている自治体もあるので、来年度以降や後期計画では、そのような係わり方も、地域協議会として検討していく方向で進めたいと思う。

来年度の地域協議会は、1回目は、今年度と同様に市役所から進捗状況報告を報告してもらい、2回目は、地域協議会としての意見を文章化して市役所に報告して、翌年度の事業を検討する際に活用してもらおう試みを行ってはどうか、と思っている。

(以上、平成20年度第2回地域協議会)

委員

全事業について、自己評価であっても他の課に評価してもらっていることは大変高く評価したいと思う。来年行うか別として、重点事業については地域協議会が評価を実施する必要があると思う。各担当課の評価の下に、地域協議会でオーソライズ(公認)された評価が書き込まれるというイメージです。実施に当たっては、各委員が割り当てられた事業について評価して原案を書いていただき、それを地域協議会で検討するという評価があっても良いのではないかと思う。もし、事業主管課と地域協議会での評価が大きく異なる場合はどこかに課題がありそうだということになる。

また、“評価不可”の事業があるが、公費が使われている以上は、何らかの評価が来年度以降は必要だと思う。

(以上、平成21年度第1回地域協議会)